

田辺三菱製薬 本社ビル

Mitsubishi Tanabe Pharma Corp. headquarters building

No. 03-039-2015作成

新築
事務所

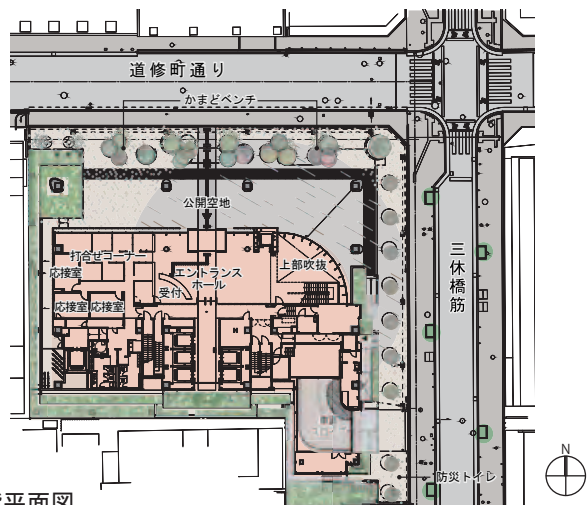
発注者	田辺三菱製薬 株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	株式会社 大林組 OBAYASHI CORPORATION	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	株式会社 大林組	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

「くすりの道修町」との共存・共栄

日本の薬業発祥の地である道修町には江戸時代に「薬種中買仲間」が店を連れ、輸入した薬は一旦ここに集まり全国に流通していった。延宝6年(1678年)に創業した田辺三菱製薬のルーツの一つである田邊屋五兵衛商店も安政2年(1885年)にここに店舗を開設し、現在でも多くの製薬・薬品会社が本社を構えている町である。300年以上この町と共に発展してきた製薬企業の本社社屋の建て替えにあたり、この町と如何に共存し共栄していくかを最大の設計テーマとした。

生きた公開空地

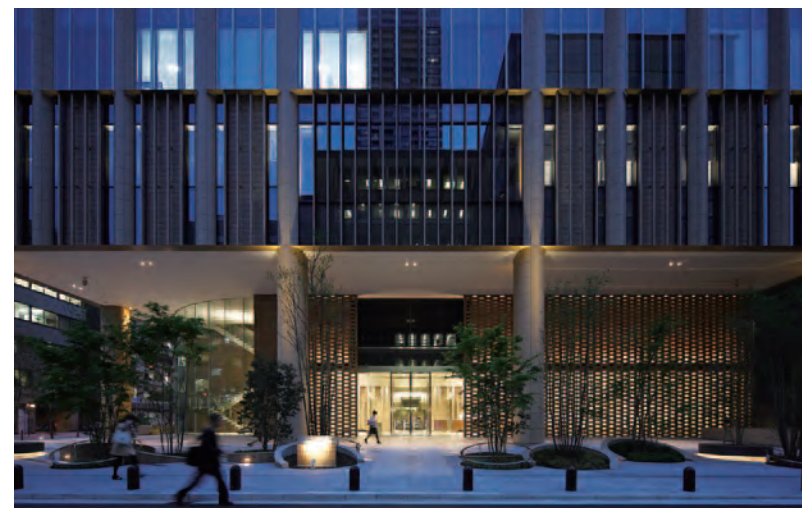
歩道が少ない道修町通りに面して、まとまった公開空地を設けて歩行者空間の整備の起点となることを図っている。植栽にはハーブを用い、植栽柵に薬草を型押ししたタイルを使用し、「くすりの道修町」らしい景観を生み出している。尚、公開空地は防災トイレやかまどベンチを備えた防災広場としての機能も有している。



配置・1階平面図



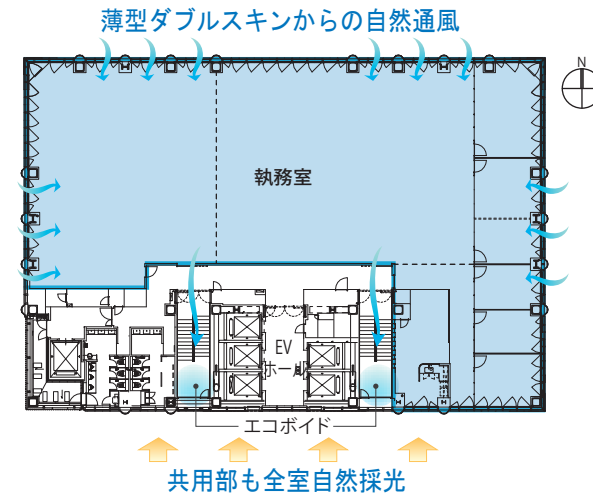
北東側全景



道修町通り側 基壇部夜景

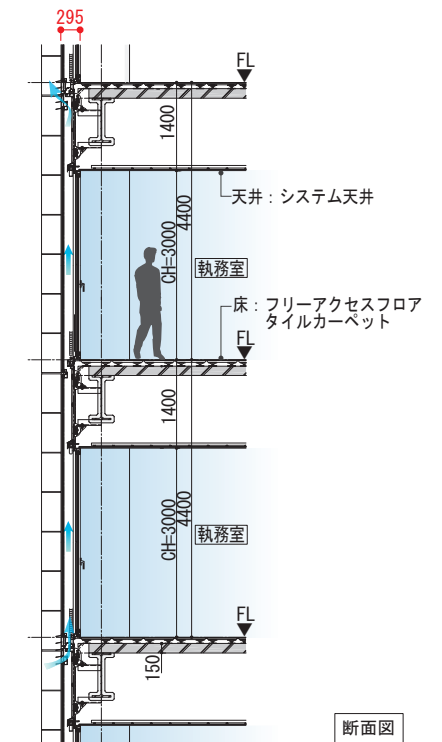
心と体の健康に配慮したオフィス

執務フロア外装には厚さ295mmの薄型ダブルスキンを採用し、インナーの開閉部を開けることによって、自らの手で自然の風を取り入れることができる。階段室には風の流れを生み出し、光を取り入れるエコボイドを設け、自然換気を可能としている。また執務室・トイレなども全室自然採光が可能な平面計画としている。

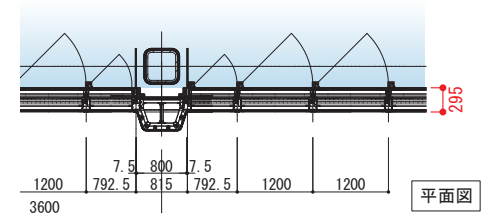


薄型ダブルスキンからの自然通風

共用部も全室自然採光



断面図



平面図

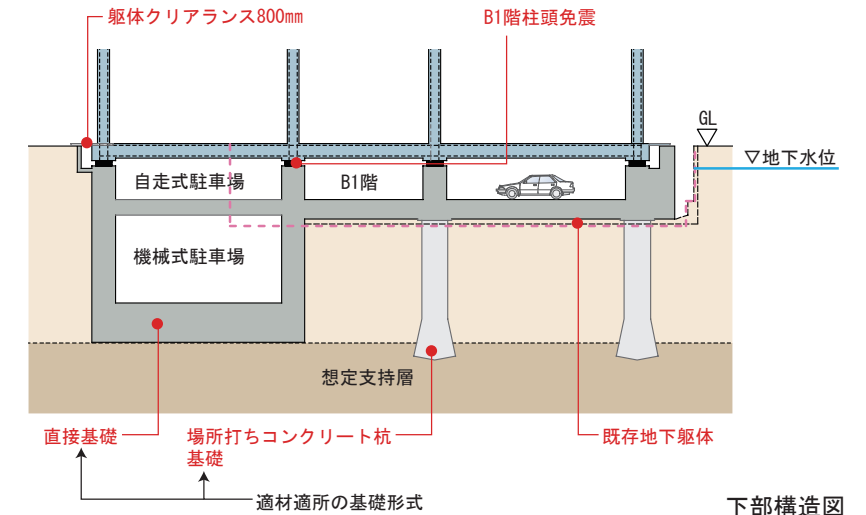
コンパクトダブルスキン詳細図

快適と省エネの両立

執務室の空調設備は、クールビズ対応も見据えた効率的な湿度コントロールと、細やかな空調ゾーニングにより個別操作性の向上を目指し、デシカント式外気処理空調機とビル用マルチエアコンによる「潜熱顕熱分離空調方式」を採用している。外気処理空調機に必要な冷温水は、コージェネ廃熱利用を含む、電気・ガス複合の中央熱源システムより供給している。全館LED照明器具を基本とし、また、人感センサー・昼光センサーによる照明制御による省エネに貢献している。

災害に強いオフィス

南海トラフ地震などで発生が予想される長周期地震動にも対応した免震構造を採用し、災害対策拠点として設定した一部のエリアに約50時間電源を供給できる発電機の設置、途絶リスクの低い中圧ガスの引き込みなど、大規模災害時のエネルギー確保に努めている。またこの地域は地下水位が非常に高いため、その遮水対策および工事の近隣への影響に配慮して、既存地下外壁と底盤スラブを残置し、その内側に地下躯体を構築する計画としている。そのため地下階高をコンパクトにする必要性から、地下駐車場階での柱頭免震を採用している。



下部構造図

設計担当者

統括：近井 務／建築：荒井庸行、岡村吉展、南野剛也、橋本行央、三谷勝章／構造：北山宏貴、土屋 恵、石田 稜／設備：中西 直、森井規夫、古川和彦、関 慶尚、徳原 誠／外構：山本典弘、飛世 翔／監理：大垣直子、松尾善樹、白杵高宏

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2. 2. 耐用性・信頼性 (免震構造)
- Q3. 3. 地域性、アメニティへの配慮 (街並の連続、地域に開かれた公開空地)
- LR1. 3. 設備システムの高効率化 (デシカント外調機、LED照明)
- LR2. 2. 非再生性資源の使用量削減 (地表面、屋上面緑化)
- LR3. 3. 周辺環境への配慮 (風環境シミュレーション)

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価	
所在地	大阪府大阪市	Aランク	
竣工年	2015年	BEE=2.3	
敷地面積	2,146㎡	2012年度版自治体提出	
延床面積	16,998㎡		
構造	S造(一部RC造、SRC造)		
階数	地下2階、地上14階、塔屋2階		